

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

総合計画を核としたトータル・システム化の推進

2 取組期間

平成 27 年度～（継続中）

3 取組概要

総合計画と各分野別計画との整合性を図るとともに、総合計画から予算編成、行政評価などの仕組み・制度（システム）が連携して機能する状態に再構築します。

4 背景・目的

本市は、平成 18 年 3 月に 2 市 8 町が合併し誕生した自治体で、合併に伴い先進的な取り組みとして行政評価や人事評価など、複数の行政システムを構築し推進して来ましたが、個々に取り組んだことにより、これらのシステムが連動することはなく、システムの効率的な連携が課題となっていました。

また、合併に伴い数多くの計画も策定されたため、これらを維持・管理する事務の負担の増加も課題となっていました。

このような中、第 2 次天草市総合計画の策定を機に、「総合計画を核とした自治体経営のトータル・システム化」の推進に取り組み、効率的かつ効果的な行政システムの構築、計画の策定及び管理に関わる手間・コストの削減を図るとともに、総合計画の目標の実現を目指しています。

5 取組の具体的内容

(1) 行政システムの統合化

総合計画を中心として各種の行政システム（実施計画、予算編成、評価システムなど）を再構築します。

①総合計画を中心とした予算と評価の連動

- ・総合計画の「実施計画書」と予算編成時の「予算要求書」を「実施計画兼予算要求書」に統合します。
- ・「実施計画兼予算要求書」を用いて、事業の検証・評価、事務事業のスクラップアンドビルドを行います。
- ・業務支援システムを構築し、実施計画と予算要求との一元化を図ります。

②実施計画の運用

- ・実施計画は、予算を用いる「予算事業」以外に、職員人件費のみで行われている事業で、政策や施策に関わる事業も「ゼロ予算事業」として対象として、各事業に活動指標を設定します。

③事務事業のスクラップアンドビルド

- ・毎年、全事務事業を検証・点検し、効果が乏しい事務事業等のスクラップアンドビルドを徹底します。

④枠配分予算に基づく実施計画兼予算要求書の作成と調整

- ・予算要求額は、各部（局）等に配分された予算枠の範囲内に収まるように調整することとします。

⑤総合計画の進捗管理と評価

- ・毎年度、総合計画の進捗管理及び評価を実施し、当該年度の事務事業の改善や次年度以降に重点的に取り組むべき事業を検討します。
- ・行政評価や事務事業評価など、類似の機能を持つ全てのシステムは、総合計画を中心とした評価体系に一元化します。

⑥総合計画と財政規律の連動

- ・枠配分予算方式を前提に、自律的な財政運営を行うことを通じて、財政規律の確保を図ります。

⑦行政システムに関わる年間スケジュールの連動化

- ・評価、目標設定、重点化、予算化、事務事業実施、進捗管理などを効果的に連動させるため、年間スケジュールを整理します。

(2) 計画の総合化

総合計画と分野別計画の連動を徹底し、併せて分野別計画の整理・統合化を行います。

①計画群を点検及び検証し、その位置づけを確認します。

②分野別計画の統合化と体系化

- ・個別分野の政策領域が類似している分野別計画を統合化します。
- ・分野別計画の実施段階を担う計画についても統合化します。
- ・法定計画は、可能な限り類似の計画群を一元化し、統合化や体系化を図ります。

③総合計画と分野別計画の目標年次や周期の合致

- ・分野別計画は、原則として、総合計画の基本計画期間に、目標年次や計画期間を合致させます。

④総合計画と分野別計画の連動

- ・分野別計画は、総合計画の「基本計画」で定めた分野別の政策、施策計画の取り組み方針に基づき、分野別計画での目標、取り組み内容、スケジュールなどを定めます。

⑤分野別計画の自主策定の原則

- ・分野別計画の策定にあたっては、職員の政策形成能力の向上を図ることを目的として、原則として担当する課（室）等において作成します。ただし、専門性を必要とする調査・分析等については、外部への委託を可とします。

⑥ 審議会等の統廃合

- ・ 審議会等については、その意義や役割を踏まえ、職員の事務量や関連予算の軽減を図るとともに、委員の重複等による負担を回避するため、統合を検討します。

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

- 第2次天草市総合計画に掲げるまちの将来像の実現に向けて、実施組織となる7つの部門を設置し、総合計画の評価・進捗管理に取り組んでいます。
- 効率的な事務遂行の観点から、予算編成・評価システム・実施計画などの行政システムを統合的に支援するものとして、電算システムによる業務支援システムを構築しました。

7 取組の効果・費用

- 各種の行政システムの統合化により、効率的かつ効果的な行政システムが構築されます。
- 分野別計画の整理・統合化を行うことで、計画実施の実効性を高め、計画策定や管理に関わる手間やコストが削減されます。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- 「総合計画を核とした自治体経営のトータル・システム化」は、これまでの手法と異なる新たな手法であったため、職員の意識改革が大変重要でした。
- 7つの部門を中心に総合計画の評価・進捗管理に取り組むことで、職員の意識改革が出来てきたと考えます。

9 今後の予定・構想

- 現在は、総合計画の実施組織である部門と組織機構の部署が異なる部門が存在しています。総合計画の評価・進捗管理から財政規律への連動を円滑に行うため、部門と部署の整合を図る必要があります。
- 審議会等の統廃合について、一層取り組みを推進する必要があります。

10 他団体へのアドバイス

- 「総合計画を核とした自治体経営のトータル・システム化」を円滑に推進するためには、職員の意識改革に取り組むとともに、総合計画の実施組織となる部門と組織機構の部署を可能な限り整合させることが重要だと思われます。

11 取組について記載したホームページ

該当なし